

医師に見放された人々を救った！

## 医療革命「ごしんじょう療法」脚光

日本貴峰道協会主宰 貴田晞照氏

現在、世界の医療は行き詰まり、さまざまな問題を抱えている。通常医学にはない新しい医療を求める動きが世界的に高まっており、医療の大変革がいまほど希求されている時はない。こうしたなかにあつて「ごしんじょう療法」で医療の大変革を起こそうという壮大なビジョンを掲げ、着実に患者を蘇生させている治療家がいる。日本貴峰道協会を主宰する貴田晞照氏である。そこで「ごしんじょう療法」とはどのような療法なのか——医師に見放された人々を救った「気の療法」に迫った。

エネルギーの世界から病に迫る  
究極の治療法が医療史上に出現

### ■21世紀の画期的療法

21世紀に入り、医療の高度化がますます進んでいるが、未だ病を物質レベルでしか捉えていない。それに対して「ごしんじょう療法」は物質レベルを超えた、より根源的なエネルギーの世界から病を捉えた究極の治療法とあってよい。

つまり、「ごしんじょう療法」とは生命現象である化学現象、電気現象が正しく行われるように、人体のエネルギーの場を創発的に操作・制御し、あらゆる病を根本治療する21世紀の画期的な新しい療法だ。

この「ごしんじょう療法」に対して医療の専門家は絶賛する。まず、若いころに癌研究会 有明病院の前身である癌研究会 附属病院で研鑽を積んだ癌の専門外科医であり、医療法人社団 光仁会・梶川病院の元理事長、梶川憲治氏は次のように評価する。

「原因のわからぬ、堪らないほどの慢性疼痛に対する効果は、他の治療法に比べて、『ごしんじょう療法』は、断然群を抜いています。実際に、治療しておられる現場で、癌のいわゆる末期の患者さんを含めて、さまざまな患者さんを定期的に観察してみましたし、お話もお聞きしましたが、どうして痛みが取れるのかということが判断は出来ませんでした。とにかく患者さんは一応に、身体が軽くなったといわれ、全く奇跡だと喜んで次々に帰っていかれます。医師としてもただ呆然と見送るということになります」

### ■医学界の権威が絶賛

そして梶川氏はこう続ける。「『ごしんじょう療法』は内服などを使わず鍛え抜かれた二

本の金の棒で身体中を擦る、押し付けるだけで長年治癒しなかったすさまじい疼痛も、アトピーも、ステロイドを散々使った後の突発性難聴も軽快するのですから、いくら今の医学が万能だと思っても、自分たちにできないことは、謙虚に認めなくていけないのではないかと信じます。しかも『ごしんじょう療法』は全く副作用なしなのです」

「癌の中で一番怖いと言われるスキルス性胃癌が『ごしんじょう療法』のみで著効する驚天動地の症例も確認しました。まさに、無限の可能性が『ごしんじょう療法』には開けていると言えるでしょう」

また、日本生物物理学会元会長で日本を代表する脳科学者の松本元氏（理学博士）は「ごしんじょう療法と気の流れ—何故、ごしんじょう療法があらゆる病を改善するのか—」という論文の中で「ごしんじょう療法が、貴田晞照先生によって開発されたことは、日本人として極めて誇りに思うと共に、科学的解明によってこの手法をさらに高め、世界人類の福祉に役立てるようになることが、我が国の全人類に対する責務であろう。ごしんじょう療法の効果は、時と共にますます確実な事実として普及し、本物だけが発する確かな輝きを発しながら、万人に生きる勇気と励ましを与えるであろうことは疑いがない」と記している。

## 邪気を除去、正しい気の流れを 普通の主婦でも「名医」になれる

### ■病の本質は邪気

では「ごしんじょう療法」で病を治すとはどのようなことなのか。「ごしんじょう療法」について貴田氏は次のように説明する。

「どのような病気に対しても、同じ方法でしか施術を行っていません。身体に停滞している邪気（過剰な電磁気エネルギー）を取り除き、本来の正しい気（エネルギー）の流れにしているのです。病を引き起こしている『邪気』を『ごしんじょう』の『正気』で取り去ることができます。『ごしんじょう』を手に入れば、誰でも気の流れが高まり、気力を発揮できるようになります」

「例えば全く医学知識・経験がない普通の主婦でも『名医』といわれるような病治しができるようになります」というように、貴峰道で働く弟子の矢上恵子さんは約30年間専業主婦だったというが、今ではごしんじょう療法師として、末期がんの医師からも信頼されるほどの治療効果をあげているという。

『ごしんじょう』を持てば『邪気』がどこにあるか、寸分の狂いもなく分かり、『ごしんじょう』で『病を治す』という実践で、病の本質が『邪気』であることが分かるのです」

では「ごしんじょう」で捉えた病の本質の「邪気」とはいかなるものかという点、現代科学用語でいえば過剰の電磁気エネルギーというものだ。しかし、電磁気エネルギーは邪気の一面一部でしかない。気とは人智を超えた深遠なる世界のものである。

## ■世界に先駆ける

食物の消化・吸収・代謝・排泄・有害物質の解毒処理などを含め、五臓六腑、脳の働きなど、人体のすべての生命現象は、電気現象と化学現象で行われている。これらの現象が正しく行われるには、生命エネルギーの場が正しくなれば、生命現象は正しく行われるように、身体が生得的に機構化されているという。過剰な電磁気エネルギーを除去し、この生命現象の場を正しくするのが「ごしんじょう療法」だ。

現代医学は飛躍的に進歩しているが、いまだ「物質の世界の医療」に終始しているのが現状だ。しかし、「ごしんじょう療法」は、生命エネルギーの場を正しく導くという「エネルギー世界の医療」。世界に先駆けて、すでにその事を実践し、花粉症や多くの病に高い効果を表わしているという。

「ごしんじょう」は、すべて純金によって作られているが、単なる純金の棒ではない。日本を代表する貴金属メーカーの特殊な製法で作られ、財務省造幣局による純金の証明記号が打刻されるという。

しかし、それはまだ純金の棒であって、「ごしんじょう」ではない。「ごしんじょう」となるためには、貴田氏が奈良県吉野大峯山に持参し、純金の棒に力を込める。最後に「ごしんじょう」の刻印を打ち込み、初めて「ごしんじょう」となるという。

奇跡の回復、枚挙に遑なし  
花粉症から末期癌まで続々

## ■修験道での厳しい実践

大峯山は修験道の聖地であり、1300年の歴史を持つ、日本で唯一女人禁制の霊峰だ。修験道は天地万物に生命が宿る生命観を持つ自然崇拜の山岳信仰のことだ。

神仏習合にとどまらず道教や儒教をも含み、日本の宗教の典型といえる。山岳信仰は自然そのもののありようを肯定し、自然と触れ合い呼吸し、宇宙（自然）と己が融合する世界。自然回帰が叫ばれる今日、修験道の自然との共生の教えはますます重要度を増している。貴田氏はここで自ら気の質を高め、より高い病治しができるように霊峰・大峯山で行を重ねて、患者に渾身の治療を行っている。修験道は学理よりも実践を貴び、行によって修めた力を悩み苦しむ人々のために験（あらかず）道である。

再び医師の梶川氏にご登場してもらおう。「貴田晞照師の行っている『ごしんじょう療法』は全身を純金の延べ棒で隅々まで擦り、ポイントの部分で押しながら、また擦るという方法です。一般的に癌や炎症と正常組織には電位差があってそれが免疫細胞や制御剤などを受け付けなくしているバリアーになっているという説もありますが、まさにその電位差を解消する効果があるのではないかと推察されるのです。組織の電氣的（電磁波的）蓄積がすなわち邪気であると言い換えてもいいのではないかと思います。1回か2回で奇跡

的に疼痛が取れた例、4～5回で動かなかった手足が動き始めるといった例など枚挙に遑がありません」

#### ■著名文化人も賛辞

梶川氏は驚きをもって次のようにいう。「貴峰道の貴田師のところには、ほとんど全例とあっていいほど、癌の末期か再発した人、言い換えれば、ほぼ今の医学から見捨てられた人たちが訪ねてきています。それだけにこの『ごしんじょう療法』の効果は、本当に驚くべきものと言わざるを得ません」

医学の進歩によって病の原因は解明されたが、本質に近づいているかといったら逆に本質から乖離してしまっていると貴田氏は強調する。「こうした中であって本質を的確に表わす言葉が日本語にある。それは『病気』という二文字だ。しかし、現状は気の世界が見失われてしまったがために『病気』の『気』を『気のせい』とか『気の持ちよう』と情緒的、狭義にしかとらえられていない。『病気』という二文字は生命エネルギー＝気の流れに異常があると病になるという病の本質を的確に表している言葉である。『ごしんじょう療法』を実践すれば誰でも病の本質を理解できる。『ごしんじょう療法』では花粉症から末期癌まで病を起こす邪気を取ることにのみによって治療している。『ごしんじょう療法』で邪気がなくなれば生命エネルギーの場が正しくなり、免疫力が高まり、自然治癒力が最大に高まる。我々の身体は生まれながらにそのようにつくられているからだ」という。

こうした貴田氏の『ごしんじょう療法』がノンフィクション作家・豊田正義氏の目に止まった。「気の療法」を全く信じていなかったが、癌細胞が消えた末期癌患者を目の当たりにする。アトピー、アルツハイマー……さまざまな難病に苦しむ人々が、貴田晞照氏による「ある特別な療法」で癒された事実を知り、それを書き残すことを決意したという。『奇跡の医療～医師に見放された人々を救った、「気の療法」の記録～』（幻冬社）が今年7月に出版され、話題を呼んでいる。

この本では脚本家の橋本忍、映画監督の山田洋次、画家の千住博の各氏も「ごしんじょう療法」の効果を高く評価している。

#### ◆貴峰道・貴田晞照氏プロフィール

日本貴峰道協会主宰

奈良県吉野大峯山・大先達

昭和26年愛媛県生まれ。東京医療専門学校卒。鍼灸師として治療中、昭和62年に「ごしんじょう療法」を開発。「ごしんじょう療法」の治療効果の高さを現し、世界に広めるために、鍼灸を手放して「ごしんじょう療法」のみを实践、「日本貴峰道協会」を設立した。現在、全国からくるあらゆる病、難病の患者の病治しに「ごしんじょう療法」を实践し、「ごしんじょう療法」を指導している。著書は、平成6年『究極の癒し御申じょう療法』

(KKロングセラーズ)、平成9年『あなたの子供はこんなに危険にさらされている』(共著、綜合法令出版)、平成10年『万能治療』(綜合法令出版)、平成13年『超医療 御申じよう』(扶桑社)。講演多数。